


学校イノベーションのモデル化から学校情報化認定事業へ

横浜国立大学提供
作成日 2016年3月8日
更新日

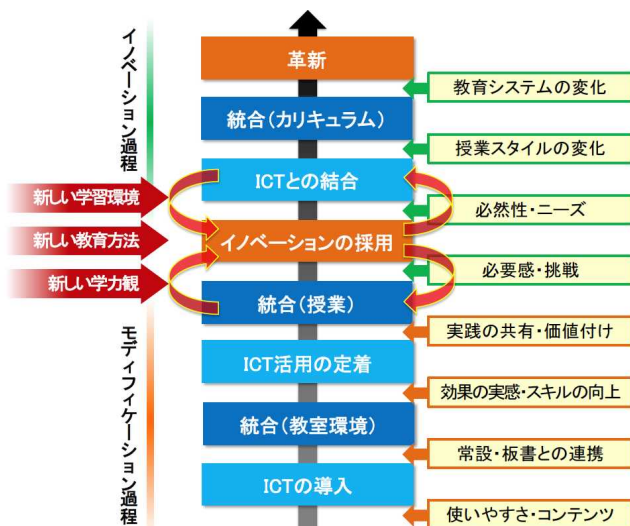
	研究者氏名 のなか よういち 野中 陽一	所属機関 横浜国立大学 教育人間科学部	関連キーワード(複数可) イノベーション、モデル化、国際情報交換、国際研究者交流、学校の情報化、教育の情報化、日英比較、教育工学、学校情報化認定
	主な研究テーマ ・教育の情報化の普及プロセス ・教育の情報化の国際比較 ・ICTを活用したアクティブラーニング	主な採択課題 ・基盤研究(B)平成22～25年度(配分総額:17,420千円) 課題名「日英比較研究に基づくICTによる学校イノベーションモデルの開発」	

① 科研費による研究成果

日本において、教育の情報化がなかなか普及しないことへの問題意識から、教育の情報化先進国である英国においてフィールド調査を行い、学校情報化の普及過程に関する知見を収集し、**日本の実状に即したICTによる学校イノベーションモデルを開発**した。

これまでの授業スタイルに合わせてICTを活用し、授業に統合するまでのモディフィケーション過程と、新しい学力観、教育方法、学習環境が導入され、ICT活用による新たな授業スタイルや教育システムの革新へと進むイノベーション過程で構成されている。

日本の小中学校40校を対象に情報化の普及過程を分析した結果、概ねモデルに合致した進展が確認された。

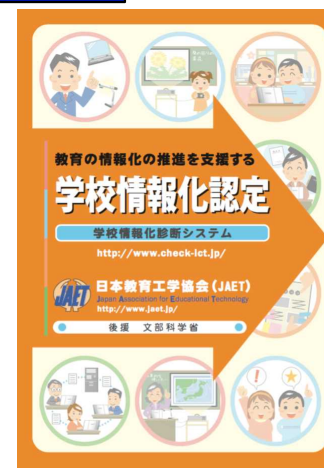


日本型ICTによる学校イノベーションモデル

② 研究成果のその後の展開など

英国では、学校の情報化の認証評価であるICTマーク及びその評価基準であるSelf-Review Frameworkが学校の情報化の推進に寄与していることから、それらを参考にして、平成22年に開発した学校情報化診断システムを研究成果に基づいて改修し、平成26年度より日本教育工学協会(JAET)において、総合的に情報化を進めた学校を認定する**学校情報化認定事業を立ち上げた**。

<http://www.iaet.jp/katudou/nintei/>



学校情報化認定リーフレット

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

学校情報化認定の優良校の基準は、教育の情報化の普及モデルにおけるモディフィケーション過程の最終段階に設定されている。この研究成果による基準で、日本の学校の審査が始まっており、全国の学校の情報化に好影響を及ぼしている。次期学習指導要領では、イノベーション過程の段階に入り、教育の情報化の取り組みがより重要になることから、学校情報化認定事業によって、学校の情報化の普及をさらに加速できればと考えている。